

學のメ刺止に其の半教を降中 既本年制表三表日 半級自ら三表尾核團より五  
 名計世系は其の中核に運りて千原さき一なるありき  
 此より傳し世生の服を受けたる自宗大衆を本制の日記に本千原士三條身在長  
 を受給式に去歲一の 日本に渡りて其の自宗特別の日記に其の事なるありき  
 金多也衣に原一定と許され一夫の英日と見るの心ありき  
 我々が國内より中より上りてゆく中核解決のなるは元方に行つたものでありし  
 りて今後は本三條を原と見ゆる 既所を以てしり 秀竹本を國の乱れたる統制の  
 下に勇取一から大粒に斗きと見ゆる 其の事なるありき  
 帝の親言より其の諸人の気分を多程解 二從えがしり 左務部大將と賜は先  
 帝也  
 右簡單下の御談を考へ 御授指中下はます、  
 十月より千原

大三商店奉議 團本部

5 10 31  
1843

警秘第三九一〇号

昭和五年十月三十一

警視總監 丸山鶴吉

内務大臣 安達謙藏 殿  
社奉向長 吉田 次郎 殿

火三田漕店勞働争議ニ関スル件(第七報)——解決)

要旨 各種條件(仕合協定米費補助等)協定外金四百圓支給解決  
 既報標記回漕店勞働争議ハ九月三十日交渉決裂以來報強対立シ  
 タリシカ十月廿八日午後一時ヨリ京橋區塩町八番地馬場伊之助  
 方ニ於テ事業主側代表馬場伊之助祖合側代表岡屋梅嶺賀原吉外  
 三名會見並記實書ヲ交附シ合ヒ午後二時半日滿解決同三時ヨリ  
 解散式ヲ舉行